

## 世界創造都市フォーラム in 浜松 2015

### 開催概要

- (1) 開催日時 平成27年12月4日(金)～6日(日)
- (2) 開催場所 アクトシティ浜松コンgresセンター41会議室
- ※浜松楽器メイカーズフェスティバルは12月5日(土)・6日(日)に  
展示イベントホールで開催
- (3) 開催内容  
基調講演 実践発表 パネルディスカッション  
ユネスコ音楽創造都市アジェンダの採択と世界音楽の祭典に向けたキックオフ  
エクスカージョン(ピアノコンクール本選鑑賞など)
- (3) 参加者  
【来賓】文化庁長官、国会議員、市議会議員、市内楽器メーカー代表取締役等  
【講師】ジャック・ラング氏(元仏文化大臣)  
【発表】ユネスコ創造都市ネットワーク音楽分野加盟都市(8都市)等  
【参加】国内自治体関係者、音楽関係者、学識経験者、文化関係者、一般市民等
- (4) 主催等  
【主催】ユネスコ音楽都市はままつ推進事業実行委員会/浜松市

### テーマ

## 世界と響き合う新しい音楽文化の創造

ジャック・ラング氏

元フランス文化大臣・世界文化協会会長

アラブ世界研究所理事長

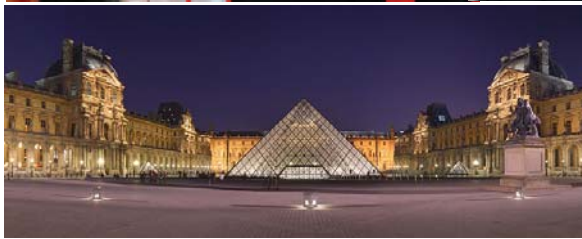
1963年ナンシー大学劇場理事長を経て、'77年パリ市議会議員、'78年ミッテラン社会党第一書記顧問を歴任する。'79年には社会党文化担当。81～83年、84～86年文化・コミュニケーション相。86年下院議員を経て88年文化・コミュニケーション・大規模事業相。91年留任。92～93年国民教育・文化相。

ド・ゴールに並び文化政策の重要性を認識していたフランソワ・ミッテランの下で文化相を長らく務めた文化政策の大家。大臣就任中に地方分権法が施行されたこともあり、パリ一極集中を是正し文化の地方分権化に取り組む。「自らが芸術のつくり手にも受け手にも成り得ることが、芸術文化をより一層人々の身近なものにしていく」という文化の民主化を推進した。また、芸術文化が包含する領域の拡大を図るため、現代舞踊、現代音楽、そしてロック、ジャズ、コミックなどのポップ・カルチャーやサーカスなども芸術として認知するなど大衆文化を支援した。

ラングの業績としては、音楽の祭典 Fête de la Musique の創設に加え、1989年のフランス革命200周年記念式典の演出、監督、記念事業が挙げられる。ミッテラン大統領とジャック・ラングによって行われたパリの大改造（グラン・プロジェ）により、パリ市内にはフランス国立図書館、ルーヴル宮殿のガラスのピラミッド、アラブ世界研究所、オルセー美術館、バステューユ広場の新オペラ座、ラ・デフアンス地区のグラン・アルシュ、ラ・ヴィレット地区の科学や音楽の専門施設などが建設された。

映像芸術にも関心が高く、カンヌ映画祭評議員を務めたほか映画人にも知人が多い。能や歌舞伎など日本の伝統文化をはじめ、食文化を愛する親日家でもある。日本の文化人にも人脈が多く、特にビートたけし、三宅一生とは長年の友人として現在も親交を深めている。

翻訳された主な著書に『ルーヴル美術館の闘い：グラン・ルーブル誕生をめぐる攻防』（未来社）、『マルローへの手紙』（同）、『ネルソン・マンデラ』（同）などがある。



## 音楽の祭典について

1982年当時ジャック・ラング文化大臣はフランス全土が音楽で満たされる一日をつくった。

毎年夏至の日（6月21日）を「音楽の祭典、音楽の日（la Fête de la Musique）」と定め、フランスではさまざまな音楽イベントが開催される。今年で34回目を迎えるこの夏の一大音楽イベントは、様々な音楽がフランス全土で響き、移民たちが故郷の音楽を演奏するなど、音楽の上での文化交流の日にもなっている。

“音楽の祭典”での演奏者は、プロ、アマチュアを問わない。つくり手と受け手との関係が改善され、従来受け手であった市民が芸術創造の主役になることで、芸術文化をより一層人々の身近なものにしている。

ジャズ、ソウル、ファンク、ロック、レゲエ、ポップ、クラシックなど、あらゆるジャンルの音楽が奏でられ、アマチュアやプロの演奏家（オーケストラ、オペラ、合唱団など）たちが、音楽への情熱を無料で聴衆と分かち合う。

「音楽の日を祝って、音楽を奏でよう」を合言葉に、四半世紀にわたるこの音楽祭は、1985年にヨーロッパ諸国とパートナー憲章を結んだことをきっかけに海外に発展、その後20数年を経て、現在では世界中の100カ国、400以上の都市でも開催されている。





